



千葉県からお墓の移設工事で兵庫県香美町へ行ってきました。



お彼岸中の休日には娘達と箕面まで小旅行へ出掛けました。



お盆前の暑い日の作業は毎日が熱中症との闘いでした。



お墓の文字ペンキの入れ直し作業はベテラン石田が担当します。



奈良県御所市でお墓の改修工事です。高さ約2.3m、重さ約1tのお墓を手作業で吊り上げています。



10月16日、石屋の先人達を供養する高野山慰霊祭に参加しました。



9月26日には毎年恒例の経営計画発表会を行いました。



10月になって涼しくなってきましたが穴掘りの作業は汗をかきます！

秋のお彼岸も過ぎ、やっとな朝夕が涼しくなってきました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

弊社近況としましては冒頭の写真にもあります。去る九月二十六日、堺市駅近くにある福祉施設、サンスクエア堺で弊社の第四十二期経営計画発表会を開催致しました。出席者は私を含めたスタッフ六名に会計事務所の先生、経営顧問の先生、日頃からお世話になっている経営者の先輩にお越し頂き、総勢十名となりました。

経営計画発表会は毎年弊社の決算月にあたる九月か翌月の十月に行っており、今年で九年目となります。

年に一度、経営方針を熟考し、出席者の前で発表することは、私自身のその後一年間の歩む道筋を照らす光のような役割となっており、毎年のことながら我々の仕事は社会にとって何の役割を担っているかということに想いを巡らせ、

社長ごあいさつ

一人一人のご縁を大切にすることを重要視を改めて感じることが出来ました。

また今回の発表会では、最近テレビや雑誌でよく見掛ける「墓じまい」や「墓倒し」について焦点を絞り、全員でディスカッションをしました。

この通信でも何度か書いていますが、近年は核家族化や少子高齢化などが原因でお墓を引き継ぐ方がおらず、お墓を撤去し、合祀墓へ永代供養をするといった方が年々増えています。

それぞれのご家庭にやむを得ない事情があるとはいえ、自分の生まれたルーツともいえるお墓を無くしてしまうのは辛いことだと思います。

そのような社会情勢の中、我々が出来ることは、今後も留まることなく変化していく供養の形に少しでも皆様のお役に立てるサービスやご提案を研究することを怠らないことだと胸に刻むことが出来た。今年の発表会となりました。

小路口 欣弘

～今月の小路口石材活動記～



雑草予防で墓所内にモルタルを敷き均しました。



堺市内にてT様墓所改葬工事が完成しました。



突然の雷雨で現場から約100m地点に落雷し、九死に一生でした。



千葉県からの墓所移設工事で現地外柵解体工事時の一枚です。



堺市内にてN様墓所新設工事の完成写真です。



お盆前には防草土工のお仕事も頂きました。



堺まつりパレードへ参加させて頂きました。



家族揃って初の登頂となりました！

「子供には自由な豊かな経験が」

先日、私自身十数年振りとなる金剛登山に家族五人で行ってきました。娘も上の二人は父が病にかかる前は何度か連れてもらい登っており、末っ子の五才児だけが今回初めてということでした。

途中で何度も諦めそうになり、立ち止まったり、しゃがみ込んだりしていましたが家族皆で励ましたり、手を繋いだりしながら約一時間二十分かけてなんとか山頂まで辿りつくことが出来ました。五才児曰く、今までの人生で一番頑張ったそうです。

今年娘達は春の五十kmウォークには始まり、夏は娘達だけの茨城県合宿の参加、今回の登山に堺まつりパレードへの参加と色々初めての経験が盛りだくさんです。今後自由闊達な経験を積ませて伸び伸びと成長してほしいと思います。

編集後記

お墓にまつわるエピソード集、『お墓物語』のプレゼントを引き続き行っています。心温まる二十三の文集で、家族や命の繋がりを感じていただける一冊となっております。お申し込みはお電話・FAX・eメールで随時受付しております。

お墓物語 プレゼントします



発行元
お墓のリフォーム専門店
小路口石材

小路口石材 検索

小路口石材工業株式会社 tel. 0120-78-5461
〒591-8034堺市北区百舌鳥陵南町1-13 http://sakai-boseki.com



今日のリフォーム工事

堺市内 I様 墓所全体の傾き直し工事

今回は建立後約40年のお墓の傾き直しを施工させて頂きました。傾きの原因は墓所の後ろ側が高さ3mほどの切り立った斜面であることと、墓所の右側に立っている桜の木の根が墓所全体を持ち上げていることでした。写真①と②は施工前のものですが、②のもので桜の根っこが石を持ち上げて、外柵の笠石が折れてしまっているのがわかります。そこで一度墓所全体を解体して基礎からやり直す方法をご提案させて頂きました。写真③では墓所解体後、基礎工事の堀方の時に大きな根が出てきたところで、写真④はそれを取り除いたものになります。



その後杭打ちや転圧でしっかりと地盤を締め固めて写真⑤のコンクリート打ちで基礎を固め、写真⑥、⑦が間知石、階段、笠石の復旧据え付けの写真となります。外柵内の土も全て入れ替えて、笠石の折れていた部分は新しい延石に取り替えました。笠石の接続部分にはL型金物で固定をしました。写真⑧では墓石の復旧据え付け、最後に外柵の水ゴケを綺麗に除去し、玉砂利を敷き詰めて完成です。全て解体・復旧となると大袈裟に聞こえますが、工程は延べ6日間で済み、お客様にも大変喜んで頂くことができました。

専務和弘の 仕事へのこだわり

最近十代のころ夢中になっていたブラックバス釣りにまたまっている専務の和弘です。今回はお墓参りについて書かせていただきます。皆様はいったいどれくらいの頻度でお墓参りに行かれていますか？先日、テレビで見たアンケート結果によりますと平均で年に2回未満とのことでした。そのうち全体の3割程度のかたが年に1度もお参りに行かないとのことでした。皆様はこの結果を見てどのように感じられましたか？私は正直そんなにも少ないのか、とショックを受けました。墓地での施工がメインの私ですので皆様よりもかなり長い時間墓地にいるわけですが、やはり年々お参りにお見えになる方が減少しているように感じます。核家族化が進みお墓が自宅から遠い、女性しかいないので後

を継ぐ者がいない等の理由からお墓を処分される方が増えているのが現状です。お墓参りという行事としてはあまり楽しいものではないイメージですが、お墓参りを推進している小路口石材としましてはこれからどのようにすれば皆様がお墓参りに関心をもっといただけるかを考えて実行していきたいと思っております。まずは、当社オリジナルの(お墓参りに行こう)トレーナーを着て会社の前の掃除をしたいと思っております。このトレーナーをみて一人でも(あっ、そういえばお墓参り長いこと行ってないな。次の休みにでも家族と行くかなんて思っていたら幸いです。



お墓の耐震施工について

阪神大震災、東日本大震災、御嶽山の噴火など、現在地震活動が活発になっているとされる日本ですが、揺れによる墓石の倒壊などは石の破損に留まらず、場合によっては生命をも危険にさらしてしまいます。

墓石というのは仏石や台石をはじめ、各部材の組み合わせで構成されており、石と石のつなぎ目が多数あります。阪神大震災以前に建てられたお墓には、この目地の部分に、セメントが用いられていました。震災以後は各メーカーが研究を重ね、現在では弾力性の高いコーキング剤で震度7でも耐えられる非常に接着性の強いものが用いられるようになっています。メーカー発表値によると、接着面1平方センチメートル辺り約100kgの接着強度があるそうです。ちなみにお墓の仏石の重量は約100kgで、当社の施工では3平方センチメートルの接着を4カ所に施しています。(写真参照)

とはいえ、震度7でも耐えられるコーキング剤も耐用年数が約5~10年(環境による)と言われておりますので、メンテナンスが必要となってきます。

また、東日本大震災の支援に参加した時には、目地に耐震施工が施されていたのにも関わらず、津波によって根元からそのまま倒されている墓石も多数確認しましたので、完璧な耐震・免震施工は現段階では無いといえると思います。

そもそも震災など起きなければ一番良いのですが、日本に住んでいる以上、常に対策を講じなくてははいけません。この機会に一度お墓の耐震、免震を考えてみてはいかがでしょうか。(深井将太)



各部材の接続部分と目地には耐震性コーキング剤を使用します。



東日本大震災の津波の被災地では地震に強い接着材を使用しても根元から倒れているお墓が多数見られました。

休日を楽しむ ～大台ヶ原散策～

十月十五日に息子家族と一緒に奈良県大台ヶ原へ散策に行ってきました。当日は始発の電車で和泉中央まで行き、息子達と待ち合わせて車で約三時間。日帰りでしたが堺とは別世界の新鮮な空気を吸って元気を頂いてきました。ゆっくりと約四時間散策をして、帰る頃には万歩計が18000歩になっていました。

朝は霧がひどく、10m先が見えないほどでしたが、途中で紅葉も楽しむことが出来、何より息子や孫達と一日ゆっくり出来たことで英気を養うことが出来ました。この調子で来週は上高地へ行きます!(石田)



(↑)紅葉も楽しむことが出来ました。日出岳頂上で孫との2ショット(→)

今日の読書 「海賊とよばれた男」

今回は約一年程前に呼んだ本の紹介になります。既にご存じの方も多いと思いますが、これは出光興産の創業者、出光佐三氏が敗戦当時、誰もがその日の生活をするのが精一杯であった時代で同業他社のほとんどがメジャー企業の傘下となり、自分達の利益や安定を図っていた時に「日本の再生」という信念を基に何百倍もの規模の組織を相手に臆することなく戦い抜いた実話を基に描かれた作品となっています。

昭和五十八年生まれ私には戦争とは無縁の時代に生まれましたが、物語の中で出光氏が社員に「黄金の奴隷たる勿れ」と説く場面などはまさに現代社会に生きる我々に通じる部分が多く、また終始一貫して自分自身のためではなく、社員や国の為生きる姿勢に人間の生きる真実の美しさを感じ、深く感動しました。

時代は日々変化していきますが、先人達が築きあげてくれた素晴らしい国に生まれたことに誇りを持って、恥じない人生を歩んでいきたいと感じた素晴らしい一冊でした。(欣弘)

